「子どものアレルギー」どう付き合う？

小児科医が体験語る

松永さん（左）が作ったクッキーを試食する来場者

食や環境について語る山手さん

「子どものアレルギーの病気について」をテーマにした講座が3月6日、岩国市三笠町のシンフォニア岩国で開かれた。「岩国小児医療の会」＝代表・大溝誠子さん(52)＝の主催で、アレルギーの子どもを持つ母親ら約30人が、光市にある「やまて小児科」院長山手智夫さん(52)の話に熱心に耳を傾けた。

山手さんは、三男が重症のアトピー性皮膚炎と食物アレルギーを発症。その経験から2004年10月、新建材は一切使わず全て天然素材を使った病院を光市に作った。岩国や四国の病院に勤務したことがあり、1994年から2年間は米国・アーカンソー州に住んだこともある。

山手さんは、「アメリカで住んでいた所は乾燥地帯だったので三男の体調は良かったが、日本に帰るとまた悪くなった。アレルギーには『住む環境』が多く関係します」と話した。

また、食物アレルギーは完全には除去できないものの、耳かきいっぱいから与えて様子を見ながら、少しずつ食べられる物を増やしていくことが大切とし、「何を食べられるか、プラス思考で考えてほしい」とアドバイスした。

同市桂町の揖斐福子さん(36)は「私にもアレルギーの家族がいます。対策についての話を聞くことができて良かった」と喜んでいた。

講演後は、食育料理教室「YUMMY・TIME」の松永敦子さん(34)が作った、小麦や卵、牛乳を使わない米粉のココアクッキー、ジャガイモのニョッキみたらしを試食。味わった人たちは「参考になりました。自分でも作ってみたい」などと話していた。